

脳性麻痺の機能的アウトカムを改善するための介入 ベストプラクティスの原則

お子様やご家族へのインフォメーション

以下に推奨されている内容は、機能的な目標を持つ脳性麻痺の子どもや若者のためのベストプラクティスの原則を明確にするために、国際的な臨床家委員会によって作成されました。このインフォメーションシートは、現在の研究をもとにした考え方を提供することを目的としています。これらの考え方について、皆さんやお子さんの目標達成をサポートしている臨床家と話し合うことができます。



皆さんにとって重要な目標を設定する

介入は常に、臨床家が、お子さんやご家族に何が最も重要かを問いかけ、その優先順位に基づいてセラピーの目標を設定することから始めるべきです。

機能的な目標とは、動きや機能の障害（肘の可動域を広げるなど）を重視するのではなく、実生活での課題や活動（着替えや自転車に乗るなど）に関連したものでなければなりません。

小さな、達成可能な目標を設定し、全員が共通の目標に向かって努力できるよう、チームのメンバー全員が目標のコピーを持つべきであるとされています。

一度に設定する目標は3つまでにすることが推奨されていますが、これは、練習を達成可能なものにするためです。また、一度にすべてに取り組もうとして、お子さんやご家族が圧倒されることがないようにするためでもあります。

実生活の中で、目標とする行為全体を練習する

お子さんが機能的な目標を持っている場合、その目標を達成するための最も効果的な方法は、動きやスキル自体の改善に取り組むのではなく、目標とする行為全体を練習することである、という研究結果があります。長期的な目標の場合は、長期的な目標に向かって、小さな、達成可能な目標を設定することになります。

家庭や学校など、実生活の中で目標を実践し、お子さんが日常的に使っている器具や物を使って練習することが、より大きな成功につながります。

セラピー以外の練習は、ご家族にとって大変な作業ですが、目標を達成するためには、セラピーセッション中だけでなく、より日常的に練習を行う必要があります。

どの程度の練習が必要になりそうかをチームに相談しましょう。いつ、どこで、どのような練習をするのが現実的か、一緒に計画を立てましょう。友人、兄弟姉妹、学校、親戚、サポートワーカーなど、この計画を手助けしてくれそうな支援について検討しましょう。



チームの一員として共に取り組む

臨床家は、ご家族やお子さんの能力や目標に基づき、エビデンスに基づいた、適切な介入に関する選択肢についての知識を皆で共有する必要があります。そうすることで、どの介入が最も適しているかについて、十分な情報を得た上で、決定をすることができるようになります。介入の方法の中には、その時点でご家族やお子さんに適切でないものもあり、臨床家はその理由を理解する手助けをすることができます。

ご家族は、サービスに関する選択肢が与えられ、柔軟な対応を求める権利があります。

ご家族やお子さんに関わる臨床家は、ご家族もチームの不可欠な一員として加え、チームとして協力する必要があります。

臨床家は、現在の優先事項や介入の計画について、効果的にコミュニケーションをとることで、全員が共通の目標に向かって取り組み、サービスを調整することについてのご家族の負担を減らすことができます。

